

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1354
施設名	平河町ちとせ保育園
施設所在地	千代田区平河町2-10-3
法人名	社会福祉法人 ちとせ交友会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

・光（4歳児）

<テーマの設定理由>

・ピタゴラスを組立て遊ぶ中で、色を重ねることで変化が見られたり、太陽光でも違った発見があり、子どもたちからもっと試してみたいという気持ちが芽生えたので、探究することにしました。

2. 活動スケジュール

- ・7月: 大型電子黒板を使って保護者に光の探究活動についての話をした。
- ・9月: 影について考えてみよう! (大型電子黒板使用)
- ・11月: 物とライトの位置関係で変化を楽しむ
- ・1月: 製作物を使って遊ぶ
- ・2月: おうち作り①
- ・3月: おうち作り②

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・大型電子黒板
- ・ライトテーブル
- ・懐中電灯
- ・カラーセロハン・段ボール・ビニール・透明シート
- ・ピタゴラスプレート・ウォーターブロック

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・影ってなんだろう？大型電子黒板を使い、影の仕組みや形の変化について調べたり、実際に光を当てて試したりしてみる（デモンストレーション）
- ・透明シートやカラーセロハン、ビニール素材を用いた製作活動
- ・おうち作り（光で遊べる空間）

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・物とライトの位置を変えると、影の大きさや向きが変わることを実験し「大きくなった」「さっきとちがう！」と声があがり、光と影の関係に気づいていきました。
- ・透明シートとカラーセロハンを使った製作では、チーム分けをすることはなかったが気の合う友だち同士で自然とグループができ「こうした方がいいんじゃない？」「ここはおうちの天井にしよう！」と会話をしながら、楽しそうに描き進める姿が見られた。カラーセロハンを重ねる中で「色が変わった！」「青と黄色で緑になったよ」発見や驚きを友だちと共有し、アイデアが次々と広がっていった。
- ・屋上で、椅子や台を使って骨組みを作り、そこに前回作成した物を組み合わせて、おうち作りへと発展させた。光が差し込むことで、色や模様が映し出される空間を楽しんでいた。また、「中から見たら色が変わる！」と、光の見え方の違いに気づき、内側と外側の両方から楽しんでいた。
- ・保育者も子どもたちの気づきに共感しながら「光が当たるとどう見える？」と、問いかけ探究が深まるよう関わった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・環境と素材、そして少しのきっかけを用意することで、子どもたちは自分たちで気づき学びを深める事ができました。
- ・光の不思議さに触れる中で、子どもたちの遊びがどんどん広がり、友だちと力を合わせて作る姿が見られ、4歳児らしい協力する力や関わりの深まりを感じました。
- ・今後も子どもたちの気づきを起点に、探究が遊びへと広がる保育を大切にしていきたいと思いました。